

目指す学校像	あいさつと笑顔があふれる、信頼と潤いのある学校
--------	-------------------------

重点目標	1 学ぶ喜びのある生き生きとした学校(「確かな学力」の育成、ICT教育の充実) 2 安全で落ち着きのある美しい学校(心のサポート体制整備・安全教育の充実、安全管理の徹底) 3 家庭や地域とこころが通い合う学校(コミュニティースクールの推進) 4 学校教育目標の実現に向け、総力を結集する教職員(わかる授業、学び続ける教師、研修の充実)
------	--

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成	(8割以上)
	B	概ね達成	(6割以上)
	C	変化の兆し	(4割以上)
	D	不十分	(4割未満)

学 校 自 己 評 価							学校運営協議会による評価	
年 度 目 標				年 度 評 価			実施日 令和 年 月 日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等
1	(現状) ○全国学力・学習状況調査やさいたま市学習状況調査の結果をみると、どの教科も全国・市の平均点くらいの得点であり、概ね良好である。 ○落ち着いて学習に取り組み、しっかりと話を聴いて授業に取り組むことができる。 ○各教科が好きか?の肯定的回答は全国・市よりも高い傾向がある。 (課題) ○基礎学力の向上を図る必要がある。特に、「思考・判断・表現」の領域の育成が課題である。 ○国語の読解力(読むこと)、算数の図形分野に課題がある。	・「確かな学力」を育成するための授業改善(ICTの効果的な活用) ・「思考・判断・表現」の領域の育成	①各教科等のねらいの達成にどのようにタブレットの機能が活用できるか吟味し、オクリンクやムーブノートを積極的に活用する。	①市学習状況調査(生活習慣)で、「コンピュータを活用して情報を集めて整理したり、分析したり、まとめたりすることができた」が市の平均以上となったか。				
			①理由を明確にしながらか自分の考えを書いたり、伝えたりする活動の充実を図る。授業の最後に自己評価(振り返り)を行う。 ②読書活動の推進、学校図書館司書の活用	①市学習状況調査(生活習慣)で、「目的に応じて自分の考えと理由を工夫して書く」が市の平均以上となったか。 ②昨年度より、図書貸出数が増加したか。				
2	(現状) ○市学習状況調査「学校に行くのは楽しいですか」に、肯定的意見96%で市平均より高い。 ○学校評価「学校は保護者からの相談に対し、適切に対応している」の肯定的回答は、95%である。児童の学校評価項目「困ったときは先生や友達に相談をしている」の肯定的回答は、85%である。 ○学校評価「学校は施設設備の安全に配慮している」の肯定的回答は、95%である。 (課題) ○長欠児童がおり、保護者との連絡がなかなかつながらない家庭がある。 ○配慮を要する児童への組織的な対応が必要である。 ○専門家スタッフ(SC、SSWなど)の限られた勤務日の中で、連携強化を図るための日程調整が必要である。 ○施設設備や備品等の老朽化	・児童一人ひとりを大切にしたい心のサポート体制の構築 ・安心、安全な学校環境の構築	①年度当初に、全教職員で共通理解・共通行動をとれるようにするため、保健面と行動面について、児童理解研修を実施する。 ②対応の難しい児童については、積極的にケース会議を実施し、組織的な対応をする。 ③議題を明確にした生徒指導委員会や教育相談委員会を実施する。 ④連携強化するため、管理職と専門家スタッフ(SC、SSWなど)との打ち合わせを行う。 ⑤迅速な対応を徹底するため、「心と生活のアンケート」を確実に実施する。	①児童理解研修(保健、児童理解行動面)を実施し、共通理解を図ることができたか。 ②対応の難しい児童に対して、ケース会議を開催できたか。 ③生徒指導委員会や教育相談委員会の議題を明確にして資料を作成していたか。 ④管理職と専門家スタッフ(SC、SSWなど)との打ち合わせを毎回実施したか。 ⑤「心と生活のアンケート」後に実施された面談結果の迅速な管理職への報告が行われたか。				
			①毎月の安全点検を「担当、管理職、事務、用務員の複数の目」で実施する。修繕や改善が必要な場合の迅速対応を行う。 ②教育環境の整備を計画的に実施する。	①学校評価「施設設備の安全」について肯定的回答が90%以上となったか。 ②予算会議を定期的に行い、計画的な整備を実施したか。				
3	(現状) ○地域全体で児童を育成するために学校・地域・保護者がそれぞれの立場で何ができるのか、学校運営協議会の会議や熟議を通して、「地域と共に歩む」土合小学校を推進している。 (課題) ○ポストコロナにおいて、学校行事をどのように再開するか、また、どう改善をしていくかが課題である。	・学校運営協議会を基盤として家庭や地域との連携強化 ・開かれた学校に向け、積極的な情報発信	①学校運営協議会の3回開催する。 ②学校・地域・保護者がそれぞれの立場で何ができるのか実効性のある熟議を実施する。 ③SSNでは、保護者、地域との連携を強化して、児童の活動充実や安全のために、必要なボランティアの募集を行う。	①学校運営協議会を3回開催したか ②学校評価「学校は、保護者や地域の願いに応えようとしている」について肯定的回答が90%以上となったか。 ③学校評価「経営方針・重点目標」について肯定的回答が90%以上となったか。				
			①毎月、学校だより、PTA だよりをHPへ掲載する。 ②HPの土合っ子トピックスを月2回以上更新し、子どもの活動や教職員の活動を紹介する。	①毎月、確実に学校だより、PTA だよりをアップできたか。 ②HPの土合っ子トピックスを月2回以上更新することができたか。				
4	(現状) ○高学年の「教科担任制」実施が今年度1年目 ○タブレットを授業の中で、効果的に活用するためエバンジェリストを中心にミニ研修の実施 ○校内研修で教師自ら主体的に課題を見つけ協働的な学びの取り組みを実施(2年目) (課題) ○業務を精選し、教材研究や主体的に課題を見つけ研修する時間の確保が必要である。	・教師自ら主体的に課題を見つけ研修を進めることができる教職員の育成	①今年度実施した教科担任制について検証し、工夫・改善点を話し合い、次年度の案を決定する。 ②テーマを絞り、短時間で実施するエバンジェリストを中心にICTミニ研修を20回以上実施する。 ③自ら主体的に課題を見つけ実施する研修を6本以上実施する。	①教科担任制について、今年度の検証を行い、工夫改善点を話し合い、次年度の計画案を作成できたか。 ②ICTミニ研修を年間20回以上実施することができたか。 ③自ら主体的に課題を見つけ実施する研修を6本以上実施することができたか。				